

科目名	文章作成技法				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2022年度 前期	単位数	2		
担当教員	宮岡 良成				
内容および計画	自分の中でどんなによりアイデアや意見を持っていたとしても、それを適切かつ筋の通った文章として表現できなければ他人には伝わりません。SNSなどの断片的な表現ばかりでは書く力が衰えていくおそれがあります。現代社会においては自分の考えを適切に伝える能力が重要視されています。この授業ではさまざまな種類の文章を書き、添削指導を通じて「書き方」の基礎的能力を養成します。				
1	文章を書く基本について学びます。				
2	要約練習、メールの作成練習。				
3	要約練習、論理的な文章の作成練習。				
4	要約練習、論理的な文章の作成練習。				
5	要約練習、賛否を問う文章の作成練習。				
6	要約練習、賛否を問う文章の作成練習。				
7	要約練習、問題提起の文章作成練習。				
8	要約練習、問題提起の文章作成練習。				
9	企画の提案の文章作成練習。				
10	社会問題に関する文章作成練習。				
11	社会問題に関する文章作成練習。				
12	社会問題に関する文章作成練習。				
13	編入試験または就職試験に関する文章作成練習。				
14	エントリーシートの作成練習。				
15	1000字以上の論理的な文章の作成練習。				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	〈新版〉日本語の作文技術	本田勝一	朝日新聞出版	9784022618450	2015
上記に示した授業内容のほかにこのテキストを用いて文章表現に関してさまざまな観点から学びます。					
	参考書				
成績評価					
	評価方法				割合(%)
	出席ならびに授業での取り組み・作成した文章の提出				90
	筆記試験				10
出席の比重が90%ときわめて高いので注意してください。					
	学習到達目標	短大での学習に不可欠なレポートや作文などの客観的な文章を書けるようになること、卒業論文の基本的な文章作成技法を理解すること、社会に出てからも臆することなく文章を書けるようになることが到達目標です。			

先修条件	
実務経験	実務経験あり：古典のできない高校教諭として30年現代文と小論文を指導してきました。また高校検定教科書の編集委員を引き受けて25年以上続けています。評論と小論文を担当しており、社会・環境・政治・国際・ジェンダーなど幅広く評論文を研究し教材の発掘に努めてきました。その他類語辞典や国語辞典の編集も携わってきました。この経験をもとに日本語と文章作成だけでなく社会問題等についても教授します。
その他	教養基礎科目の「日本語表現法」とこの講座の内容や作成する文章は重なりません。両方受講することは可能です。